

和光大学同窓会 2023 年度事業報告案

前文

和光大学同窓会会長 窪田美加

和光大学同窓会は、10 回目の総会開催を迎えることができました。
和光大学同窓会に関わるすべてのみなさまのおかげです。心よりお礼申し上げます。

10 年、ただの「1 と 0」の数字ですが、同窓会設立から関わってきた私は、この数字を見るだけで、これから数字が増えていく、未来につながる「1 と 0」と感じてワクワクしています。

私たちの同窓会は、卒業生だけではなく学生、教職員をふくむ和光大学に関わるすべての人を会員とするよう、会則を改めました。作品展「おかがみ」、「福祉の仕事講座」など同窓会の活動に積極的に参加し、ともに大学生活を豊かにしていければとの思いからです。

和光大学・学園の理念が、一人一人の思いの中で、社会や家庭の中で、様々な場面で生きること、活かせることを同窓生の歩む姿を示すことによってできれば良いと感じ、会報では卒業生の活躍の様子をたくさん取り上げてきました。ここ数年コロナ禍で多くの制約がありましたが、新たな地方支部の設立や支部活動の支援、おかがみ展の開催、会員の活動支援、会員同士の交流企画などを行っていきたいです。

ひきつづき、同窓生のみなさまと協力しながら、同窓会を盛り上げていきたいと思っています。どうぞ、よろしく願いいたします。

1. 第 10 回評議員会の開催

新型コロナウイルス流行下での 3 回目の開催となりました。今年は総会が開催されない年ということもあり、機器を買いそろえて、2022 年 11 月 19 日（土）13：30～15：00、書面、対面、オンラインのハイブリッド開催を実現しました。対面 6 名、オンライン 4 名、書面議決 10 名、合わせて 20 名が参加し、2022 年度活動報告、決算案、2023 年度事業計画、予算案が承認されました。今後もこの形式を定着させて、役員幅を広げていきたいと思っております。

2. 大学との連携

定例化してきた、「学長懇談会」ですが、コロナ禍でしばらく中断していたのを、2023年2月18日に再開し、半谷学長、市村大学事務局長と、ZOOMで話合いました。

同窓会が立ち上がってからの10年間、多くの卒業生にとっての交流のツールであり、同窓会の活動の柱である、会報の発行をはじめ、卒業生名簿、及び会報送付名簿の管理、同窓会事務室をはじめ、学内掲示板、事務機器の無償貸与、会議や催事の際の大学内の施設の貸し出し、大学HP、大学案内、卒業祝賀パーティなどでの同窓会の紹介、卒業生からの問い合わせ等への対応といった、細々とした配慮へ深い感謝の意を伝えました。

大学からは、最近の新生の傾向として、かつてはいろいろな地域から学生が集まっていた、同じ日本でも違う文化や風習を知ることが発見や学びにつながり面白さもあったのですが、国も東京一極集中を嫌い、地方の学生は地方の大学へという方針であり、大学進学率は55%と増えましたが、少子化の上、経済的な理由から自宅通学が増えたこともあり、近年の和光大学の新生は6割が神奈川県、3割が東京都です。老朽化のため、学生寮も廃止してしまったので、学生募集対策も静岡、長野あたりまで、地方ではやっていないとの報告がありました。少子化だからこそ、近隣で限られたパイをとりあうのではなく、卒業生が活躍している地方で募集対策を展開してほしいところです。

募集対策は即効性があるものと、長い目で見て効果があるものと2本立てで予算を立てているので、長い目でみて大学の宣伝になるような卒業生による講演会などの企画を同窓会から出してもらえればありがたいとのことでした。

その上で、同窓会としても久しぶりの学長との懇談であり、同窓会も10年目を迎えることもあり、同窓会費の大学による徴収を巡って改めて大学の考えを確認したいと臨みました。

半谷学長からは、

- 1) 自由な学習共同体である和光大学に全員参加の同窓会はそぐわない。
- 2) 大学とは別組織である同窓会の会費を大学が集めるべきではない。
- 3) 2023年度の3年生から学費を10万円値上げしている。

などの学内事情、財政事情から、大学による同窓会費の入学時納入について理解を得られていない方を説得するのは、とても難しいので、たいへん残念ですが、同窓会としては会費の集め方として大学による徴収以外の別の方法を考えてほしいと、言わざるを得ないという発言がありました。

大学は10年間、同窓会の活動費としての安定した収入を大学と協力して確保するという、同窓会設立時の合意を尊重して努力を続けてきましたが、いまだ、理解を得られないという厳しい状況であることが改めて示されました。

同窓会費の大学による徴収は当面期待できないという重い現実が改めて明らかに

なり、幹事一同衝撃を受けました。

少子化、格差の拡大、諸物価高騰と、大学をめぐる状況の厳しさは言うまでもありません。大学からの、今まで通り支援するという発言に、望みを託すと同時に卒業生とのつながりを生かして大学の未来を後押しする組織としての同窓会への理解と連携を強く訴え続けたいと思います。

3. 同窓会の財政

上記の2で述べた通り、設立総会で、和光大学入学時に永年会費2万円を納入していただくことを決めて、10年が経過しましたが、大学による同窓会費の納入は当面期待できなくなりました。会の創立時に決めた5つの貢献事業をはじめ、金銭的な裏付けをもった活動を見直す必要に迫られています。

会としては、設立総会で決めた同窓会費の入学時納入を尊重しつつ、活動費を永年会費と寄付に頼る状態を見据えて、活動内容を厳選して実施していきますので、引き続き、永年会費と寄付のご協力をお願いいたします。

また、会報やHPに会員の活動の紹介を兼ねた有料の広告を募集する、活動費を支えてくれることへの協力をお願いをするなど、寄付を増やす努力と、活動の縮小、人件費の節約を模索していきます。

2023年度の新入生768名に対して、新たに同窓会案内と会費納入のお願いを兼ねたA4サイズのチラシを作成し、会報バックナンバー、会費用の振込用紙を添えて送付しました。

和光大学同窓会へ ようこそ!

春号
2023.05

【制作】
和光大学
同窓会事務局

和光大学に関わる全員が同窓会会員です!

和光大学同窓会公式
キャラクター



ヒカル・カス

新入生のみなさん、こんにちは。和光大学同窓会、会長の窪田美加です。和光大学同窓会は、和光大学に関わる全ての皆さんとの豊かな交流を和光大学の発展につなげていきたいと考えています。会員は卒業生のみならず、在学生、新旧教職員、和光大学に関わるすべてのみなさんです。携りつなかりを重視し、交流のネットワーク組織となります。年一回、会報誌を発行。その中では、同窓生に直接インタビュー取材した記事や同窓生の今を知る記事、大学の様子等幅広い記事を掲載しています。P.1も募集中です。

どんなことをしてきたのか

Twitter・HP
こちらをご覧ください



- ・会報誌 年一回発行
- ・総会（ハイブリッド形式）
- ・支部活動（北海道・九州等）
- ・卒業生との同窓会
- ・同窓生による企業展（公演会）
- ・教職員試験対策講座
- ・教職員講座（現場の学校とは）
- ・子育て支援講座（こども家庭福祉）
- ・卒業生の仕事先訪問（取材）
- ・研究助成金・寄付
- ・食料緊急支援活動
- ・ホームカミングデー開催支援
- など

< 連絡先 >

和光大学同窓会
事務局
〒195-8585
東京都町田市金井ヶ丘
5丁目1番1号(A棟4階)
【 Email 】
dousokai@wako.ac.jp
【 HP 】
https://wako-daigaku-
dousokai.info/

永年会費納入のお願い

和光大学同窓会 永年会費20000円
(分割納入可)

【会費振込先】 ゆうちょ銀行
【口座番号】 00140-7-449809
【加入者名】 和光大学同窓会

※通信欄※
お名前・ご住所・学籍番号・E-mailの明記
をお願いします

※同窓会費は税制優遇（寄付控除）対象外となります

4. 卒業・入学にあたっての行事への関わり

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、2022 年度修了証書授与に伴う祝賀パーティは行われず、2023 年度入学登録も、学科毎に会場を分けて行われたため、同窓会のアピールをする場は残念ながら3年続けてありませんでした。その代わりに、同窓会掲示板に卒業と入学を祝う同窓会からのメッセージを掲示し、入学式に際しては、大学事業室の協力を得て、大学A棟エントランスに同窓会の旗とともに装花を飾りました。



5. 五つの貢献事業

5-1. 卒業生への貢献

❖ 地方支部

卒業生同士が会って懇親を深めるという地方支部活動の要の活動が、新型コロナウイルス感染拡大ため、困難な状況が続いていますが、地方支部の事務局、世話人の方々のご尽力によって会報への発信は途切れることはありません。

北海道支部は3年ぶりに2023年7月8日に交流会を開催し、17名の参加があり、二次会まで久しぶりの邂逅を楽しみました。

また、顧問の大沢清さんのご尽力により、沖縄支部、山梨支部の設立支援を継続しました。

今後は、オンラインツールを導入することにより、地方支部の活動や支部と同窓会との間の関係や活動に新しい局面が開けないかを模索する予定です。

❖ 和光大学同窓会作品展「おかがみ」

6回を数え、作品制作の目標にもなりつつあった作品展「おかがみ」ですが、新型コロナウイルス感染拡大防止のために2021年度（2020年11月）から2022年度（2021年11月）が開催延期となりましたが、2023年度も、開催しませんでした。

5-2. 大学への貢献 ・ 5-3. 学生への貢献

❖ 教職支援講座

❖ 福祉の仕事ガイド

教育、福祉の現場で実際に働く卒業生の講演は、現役生に好評でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、学内で集まるのが難しくなり、オンラインでの開催など模索中でしたが、同窓会の財政問題のための活動内容の厳選を受けて、再考せざるを得ませんでした。

一方、大学の教学支援課資格係内に教職支援担当ができて、同窓会への協力依頼がありました。大学の企画に協力するという形を考えていこうと思いますが、コロナウイルス感染状況もあり、大学からの依頼はいまのところありません。

❖ 和光大学学生研究助成金への寄付

同塵会時代から続いている和光大学学生研究助成金への寄付ですが、同窓会2020年度の財政状況が厳しいために見送った2021年度以来、財政状況が好転しないため、2023年度も見送らざるを得ませんでした。

❖ 学生支援企画

国がコロナウイルスへの対応をインフルエンザ同等の5類へと変更したため、流行が見えにくくなりました。コロナウイルスの感染がゼロになったわけではありませんが、大学も対応のランクを引き下げ、学内にも活気が戻ってきています。

困窮している学生は依然として存在していると思われませんが、流行が激しかった時と同様な支援が相応しいのかどうか？立ち止まって考えて見る必要があるとの視点から、2023年度は企画を控えました。

5-4. 地域への貢献 ・5-5. 社会への貢献

新型コロナウイルス感染拡大を受けて、従来型の対面方式での企画が困難になり、新しい時代に見合った方法を模索中でしたが、活動内容を厳選する対象とし、新たな取り組みは行えませんでした。

6. 同窓会事務局

毎週1回、事務局長が、同窓会事務室に出向き、大学や会員との連絡、文書管理、会計管理等、幹事会の活動支援に努めるとともに、事務局が担う作業の増加に伴い、事務局補佐とHPの整備や更新を会長が担い、事務局の仕事をシェアしました。

7. 和光学園との連携

和光学園理事会、和光学園評議員会に本会から代表が参加しました。

8. 広報活動

ネット世代と紙媒体世代の両方に発信することをこころがけました。

HP・SNS：同窓会に寄せられた文章、催し物を掲載し、会員の活動を広く紹介することに努めました。作業を、HP・SNS担当の会長が担い、更新を随時行いました。

QRコードを導入して、会報の送付停止、住所変更が簡単にできるようにしました。

会報：2022年11月下旬にA4版12ページの同窓会報第9号を発行しました。

同窓会案内： 会創立10年を迎え、会則の会員規定の改正を機に、同窓会案内のリニューアルを予定しています。



HP



FACEBOOK



TWITTER

9. 活動日誌

幹事会 ZOOM を使ったのオンライン会議 10回

12月・1月・2月・4月・5月・6月・7月・8月・9月・10月

会計監査 2023年10月3日に実施。

評議員会

2023年10月14日に対面、オンライン併用のハイブリッド方式で
実施。

学長懇談会 2023年2月18日 ZOOMで実施